

平成28年度全国学力学習状況調査分析

三島市立中郷西中学校 学習指導部

1 平均正答率

国語A（基礎）：県平均とほぼ同じ 全国平均とほぼ同じ

中郷西中学校＝県＝全国

国語B（応用）：県平均とほぼ同じ 全国平均より高い

中郷西中学校＝県＞全国

数学A（基礎）：県平均より少し低い 全国平均とほぼ同じ

中郷西中学校＝全国＜県

数学B（応用）：県平均とほぼ同じ 全国平均より高い

中郷西中学校＝県＞全国

2 各設問毎の正答率グラフとそれからわかる特徴

国語Aの 特徴

○全体的な傾向

「書く能力」や「言語についての知識・理解・技能（漢字・文法）」は、全国平均より概ね良好である。ただし、言語の面で、「辞書を活用し、適切な意味を選択する」能力や「文の成分」に関する知識に課題がある。

・正答率が高い項目

- 文章を読み返し、文の使い方に注意して書く。（「書く能力」）
- 伝えたい事柄について、根拠を明確にて書く。（「書く能力」）
- 互いの発言を検討して自分の考えを広げる。（「話す・聞く能力」）
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。（「言語についての知識・理解・技能」）

・正答率が低い項目

- 目的に応じて資料を効果的に活用して話す。（「話す・聞く能力」）
- 奥付を使って本についての情報を得る。（「読む能力」）
- 辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える。（「言語についての知識・理解・技能」）
- 文の成分の照応について理解している。（「言語についての知識・理解・技能」）

国語Bの 特徴

○全体的な傾向

「読む能力」は、全国平均より概ね良好である。ただし、「読む能力」でも、「目的に応じて文章を要約する」能力や「情報の収集方法を考える」能力に課題がある。

・正答率が高い項目

- 文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、用紙を捉える。（「読む能力」）
- 目的に応じて必要な情報を読み取る。（「読む能力」）
- 文章の構成を捉える。（「読む能力」）

・ 正答率が低い項目

→目的に応じて文章を要約する。(「読む能力」)

→課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える。(「書く能力」「読む能力」)

数学Aの 特徴

○全体的な傾向

領域別にみると、「数と式」は県・全国よりも高いが、「図形」・「関数」・「資料の活用」の3領域は、県・全国よりも低い。

観点別にみると、「技能」は全国よりも高く県よりも低い。「知識理解」は県・全国よりも低い。特に「関数」は、8問中5問が正答率が50%未満であり課題であるとする。

・ 正答率が高い項目

→具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることのできる。(技能)

・ 正答率が低い項目

→平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求めることのできる。(技能)

→一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合が一定で a の値に等しいことを理解している。(理解)

数学Bの 特徴

○全体的な傾向

領域別にみると、「数と式」・「資料の活用」の2領域は県・全国よりも高いが、「図形」「関数」領域は、県・全国よりも低い。

観点別にみると、「考え方」は県・全国よりも高い。「技能」は全国よりも高く、県よりも低い。理由を説明する問題や求め方を数学的に表現する設問では、無回答率が20%を超えており、課題であるとする。

・ 正答率が高い項目

→適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる。(考え方)

→与えられて情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる。(技能)

・ 正答率が低い項目

→条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めることのできる。(技能)

→グラフの傾きを事象に即して解釈することができる。(考え方)

3 生徒質問の特徴

・ 高い値を示した項目

「生活習慣・態度について」

○質問番号(12)「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」 「4時間以上」…18.0%(全国9.7%)

○質問番号(18)学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」

「週に4回以上行く」と「週に1～3回程度行く」の合計… 21.3%（全国 7.6%）

「他者との関わりについて」

○質問番号(34)「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

「あてはまる」… 54.9%（全国 19.1%）

○質問番号(36)「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」

「参加したことがある」… 59.8%（全国 48.7%）

・低い値を示した項目

○質問番号(5)「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」

「当てはまる」… 9.8%（全国 19.0%）

○質問番号(53)「1，2年生のときに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」 「当てはまる」… 20.5%（全国 47.6%）

○質問番号(55)「1，2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」

「当てはまる」… 20.5%（全国 43.8%）

4 総論

昨年度に比べ、全体的に平均正答率が県や全国に対して下がった。国語B（応用）こそ昨年度と同様に県や全国に対して高いものの、国語A（基礎）は県や全国とほぼ同じになり、数学A（基礎）は全国と同じではあるが県より低く、数学B（応用）は全国より高いが県と同じ数値である。

国語については、昨年度と比較して「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」の正答率を克服したものの、代わりに「目的に応じて要旨を捉える」の正答率が下がってしまった。また、全体的に正答率が高い項目が減り、低い項目が増えた。

数学については、昨年度と比較して「数と式」の正答率を克服したものの、代わりに「図形」「関数」「資料の活用」の正答率が下がってしまった。特に「関数」が弱い。また、正答率が低い項目が新たに出現した。

今後について、国語は平成26年度に小中連携で作成した改善策を本年度版に更新して取り組んでいく。数学は数学Aで県平均に達成しなかったことから、本年度、小中連携で改善策を策定していく。（後日、改善策を公表する。）

生活習慣については、「休みの日に本に触れている時間が週1～4日」という生徒が全国平均の3倍である。また、「地域の行事に参加している」という生徒が全国平均の3倍である。反面、「スマホなどを使っている時間が4時間以上」という生徒が全国平均の2倍である。

昨年度の課題であった「土曜日、日曜日の家庭学習の時間」については、本年度も大きな改善が見られない。しかしながら、その時間を読書や地域活動などに有効に使っているのならばよいが、スマホなどの端末に触れているのならば改善を要する。

そのほか、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」という生徒は全国平均の半分

であり、1．2年生のときの授業やノートに目標を明記したという生徒は半分である。

今後については、家庭での時間の活用について、保護者が集う機会を利用して話し合い活動を展開していく。挑戦する態度については、教育講演会を通して生徒の意識を高めていく。授業における目標の設定については、4月から展開している授業づくりをしっかりと進めていく。